令和６年度　墨田区立横川小学校　学校経営計画・経営報告書（自己評価・学校関係者評価）

作成者　校長　森村　聡彦

学校教育目標	すすんで学ぶ子ども　からだをきたえる子ども　なかよく助けあう子ども
目指す学校像	新たなことに挑戦する生き生きとした魅力的な学校
目指す児童像	主体的な挑戦力と突破力をもった児童
目指す教師像	機動的挑戦と勇気ある合理的撤退を念頭に、墨田のさきがけとなる教師

〇令和６年度　学校経営計画における重点内容
- 主体的な挑戦力と突破力をもった児童を育てる指導
  ～墨田区教育委員会研究協力校２年次発表
- 新たなことに挑戦する生き生きとした魅力的な学校経営
  ～自閉情緒固定学級開設準備

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		評価	成果指標		評価	分析	改善方策	学校関係者評価		
											自己評価	改善方策	意見等
各教科指導等	確かな学力を全ての児童につけさせる	・週２回の全校朝読書活動などの、基礎学力と言語活動の充実した取組を行う。 ・全ての教科学習の基礎となる文章の読解力を育む。	4	全１４学級による静寂な朝読書の実施率100%	2	4	学力調査(国語：知識技能)全国平均を5学年上回る	4	学力調査の結果によると、これまでの着実な学習指導の成果があり、国語の読解力は全学年で全国平均を上回っている。	読解力の育成に効果がある朝の読書は、わずか１０分間に集中して文字を追うことが大切である。そのためにも校舎内が全クラス一斉に静寂に包まれることが欠かせない。例外なく取り組む。	B	A	授業時間の関係もあるが、もう少し時間があればと思う。
			3	全１４学級による静寂な朝読書の実施率 95%		3	学力調査(国語：知識技能)全国平均を4学年上回る						
			2	全１４学級による静寂な朝読書の実施率 85%		2	学力調査(国語：知識技能)全国平均を3学年上回る						
			1	全１４学級による静寂な朝読書の実施率 85%未満		1	学力調査(国語：知識技能)全国平均を全学年下回る						
	個に応じた指導の工夫	・算数科における習熟度別少人数指導を共通理解のもとで連携して効果的に実施する。 ・習熟度に応じた適切な課題を個別に与える。	4	事前に準備された教材教具での実施状況100%	3	4	学力調査(算数)C,D層の分布状況全体の15%未満	4	指導の中でタブレットを効果的に活用し、課題が終了した児童にも応用課題を課すことで、有効に授業時間を運用できた。	年度当初の３学級５展開、２学級４展開の算数科の授業を予定していたが、欠員となり実施できなかった。次年度はさらに効果をあげられるよう尽力する。	C	B	もう少し力を入れて欲しい。 具体的な向上策の提示が欲しい。
			3	事前に準備された教材教具での実施状況 90%		3	学力調査(算数)C,D層の分布状況全体の15%以上						
			2	事前に準備された教材教具での実施状況 80%		2	学力調査(算数)C,D層の分布状況全体の20%以上						
			1	事前に準備された教材教具での実施状況 80%未満		1	学力調査(算数)C,D層の分布状況全体の25%以上						
	教員の指導力・授業力向上のための取組	・全授業時間のうち２０％以上でタブレットを効果的に使用する。 ・従来のノート指導の良さを生かしながら、授業に積極的にICT機器を活用する。	4	授業での活用状況　全授業時間(コマ)の25%以上	4	4	積極的にICT機器を活用する教員の割合 90%以上	4	教員が積極的にタブレット端末や電子黒板を活用していた。研究授業などでも、新しい授業スタイルや指導技術を真摯に学ぼうとする雰囲気があった。	２年間の墨田区研究協力校としての指導技術の研究成果を生かして、ICT技術のさらなる活用と向上を目指していく。	A	A	教員の工夫が生きていると思う。
			3	授業での活用状況　全授業時間(コマ)の20%以上		3	積極的にICT機器を活用する教員の割合 80%以上						
			2	授業での活用状況　２日に１回以上		2	積極的にICT機器を活用する教員の割合 50%以上						
			1	授業での活用状況　２日に１回未満		1	積極的にICT機器を活用する教員の割合 50%以下						
生活指導等	不登校の予防と解決に向けた取組	・全教職員の共通理解のもと、機動的に対応し、担任を支援する。 ・積極的に外部機関との連携を図り、短期解決に向け尽力する。	4	家庭との定期連絡状況　毎日１回	1	4	不登校児童の出現数　全校４２５名で０名	1	児童の状況により、他の児童や担任との接触を拒む場合もあり、定期的に家庭と連絡をとることも難しかった。一方、宿泊行事や社会科見学に単発で参加できた児童もおり、諦めないことが大切。	いつでもどのような形でも、登校した児童を学校が受け入れられる体制を準備しておき、スクールカウンセラーやソーシャルワーカーとの連携で、ステップ学級などの活用を進めていく。	D	C	児童・家庭の課題でもあると思う。 学校や担任の負担にならないよう、専門家に任せるなどして、無理な目標とならないようにして欲しい。
			3	家庭との定期連絡状況　毎日１回(留守番電話)		3	不登校児童の出現数　全校４２５名で１名のみ						
			2	家庭との定期連絡状況　２日に１回		2	不登校児童の出現数　全校４２５名で２名以下						
			1	家庭との定期連絡状況　１週間に１回		1	不登校児童の出現数　全校４２５名で３名以上						
	特別な支援を要する児童への組織的な対応	・Teamsを活用して、教職員間の即時情報共有と迅速な対応を行う。	4	初動対応に要する日数　即時対応	4	4	解決に要した日数　即時解決	3	教職員に速やかに情報を共有する意識が高まり、生活指導や特別な支援を要する児童への対応力が向上している。担任一人ではフォローしきれない児童も、多くの目でお互いに支え合うことができた。	教職員各自がもてる得意な分野で、それぞれが補完し合いながら指導することを忘れずに、今後も積極的に問題解決に取り組んでいきたい。	A	A	素晴らしい対応をしていると思う。 一時的な共有にとどまらず、事後にも振り返りを含んだ共有をして欲しい。
			3	初動対応に要する日数　当日中に対応		3	解決に要した日数　即日解決						
			2	初動対応に要する日数　翌日対応		2	解決に要した日数　翌日解決						
			1	初動対応に要する日数　翌々日対応		1	解決に要した日数　１週間以内に解決						
	児童の規範意識醸成に向けた生活指導項目と目標の教職員全員の共通理解と凡事徹底指導	・校帽の着用徹底を、登校時と下校時に指導する。 ・偏食による給食の残さいを減らすよう、丁寧な給食指導を続ける。	4	登下校と給食時の声掛け指導　全ての教員が毎日	4	4	校帽着用率１００％　主菜副菜残量３％以下	3	全ての教員が課題意識をもって、指導にあたってきた。小さなことも見逃さない指導には手間がかかるが、きまりを守らせることや、給食の好き嫌いを減らそうとする努力が実を結んでいる。	教職員の指導における「凡事徹底」は、学習規律や集団生活の規範意識を向上させる上で欠かせない。諦めずにたゆまぬ努力を続けていきたい。	A	A	
			3	登下校と給食時の声掛け指導　一部の教員が毎日		3	校帽着用率９５％以上　主菜副菜残量５％以下						
			2	登下校と給食時の声掛け指導　全ての教員が時々		2	校帽着用９０％以上　主菜副菜残量１０％未満						
			1	登下校と給食時の声掛け指導　一部の教員が時々		1	校帽着用９０％未満　主菜副菜残量１０％以上						

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		評価	成果指標		評価	分析	改善方策	学校関係者評価		
											自己評価	改善方策	意見等
学校の管理運営	使命感に満ち、生き生きとした教職員集団の実現	・働き方改革を、責任をもって積極的に推進する。 ・担任への同僚からの支援や、上司からの支援を促進する。	4	相談・報告・声掛けの状況　毎日適宜	4	4	ストレスチェック指数　６０(独自目標)	3	形式的な文書作成や作業などを極力削減し、児童に向けた指導事項も、形骸化したものは廃止した。教職員には、自身の健康と家庭を犠牲にしてまで業務を優先することを禁じた。	「幸せになるために生きている」をモットーに、まず教職員が幸せで笑っていなければ、目の前の児童を幸せにできない。今の明るく前向きな職場の雰囲気を維持する。	A	A	
			3	相談・報告・声掛けの状況　２日に１回程度		3	ストレスチェック指数　７０(独自目標)						
			2	相談・報告・声掛けの状況　２日に１回未満		2	ストレスチェック指数　８２(墨田区平均)						
			1	相談・報告・声掛けの状況　１週間に１回程度		1	ストレスチェック指数　１００(全国平均)						
	服務事故未然防止の取組	・体罰や不適切な指導を根絶する ・適切に文書を管理し、確実な保管を徹底する。	4	注意喚起・服務事故防止指導　毎週１回	3	4	服務事故件数　０件	4	機会あるごとに服務事故の防止について、教職員の意識を高めてきた。身近な事故例も取り上げて指導している。	日常の業務に追われて気持ちに余裕がなくなると、ケアレスミスから個人情報漏洩などが起きる。このまま意識を高く維持したい。	A	A	気が緩むと起こりえるので継続指導が大切だと思う。
			3	注意喚起・服務事故防止指導　毎月２回以上		3	服務事故件数　０件						
			2	注意喚起・服務事故防止指導　２週に１回		2	服務事故件数　０件						
			1	注意喚起・服務事故防止指導　毎月１回		1	服務事故件数　区教委口頭注意程度　１件						
	教職員のライフワークバランスの支援	・年次有給休暇の取得を奨励する。 ・各種特別休暇の周知と取得活用を案内する。 ・業務の精選と削減に不退転の決意で取り組む。	4	月平均残業時間の削減　平均３０分短縮	4	4	平均年次有休取得日数　１９日以上	1	形式的な文書や作業などを削減したが、病傷害の時を除いて、児童が在校している時間に年次有給休暇は取得しにくい。児童下校後、可能な限り時間休暇を取得させた。	教職員自らの健康と各家庭の幸せを念頭におきながら、公教育に向かう使命を忘れずに勤務させたい。	B	A	残業時間は削減ありきではなく、業務量に合わせた現実的な対応がよい。 民間の罰則規定は年間５日未満である。年次有給休暇の取得は、年間で１５日でも難しいのではないか。
			3	月平均残業時間の削減　平均１５分短縮		3	平均年次有休取得日数　１８日以上						
			2	月平均残業時間　　現状維持		2	平均年次有休取得日数　１５日以上						
			1	月平均残業時間　　時間増		1	平均年次有休取得日数　１５日未満						
家庭・地域連携	教育方針や教育活動の様子を分かりやすく伝える取組	・毎月発行している学校だよりを月初めにホームページに更新し、その他の情報も速やかに掲載する。 ・保護者会での校長講話などの機会を増やし、広報周知する。	4	ホームページ定期更新　毎週２回以上	3	4	学校評価満足度　９０％以上	3	学校だよりなどの定期的な情報の更新の他、各学年の活動やお知らせなどを載せている。通常業務の他に分掌として行っているため、タイムリーな更新とならないこともあった。	学校の教育活動が、保護者や地域の方など外部に発信する手立てとしては有効だが、目の前の児童の教育活動と平行して行う業務としては困難も伴う。よりよい方法を考えていきたい。	C	B	ホームページの写真が変わっていないように感じる。
			3	ホームページ定期更新　毎週１回以上		3	学校評価満足度　８０％以上						
			2	ホームページ定期更新　月に２回以上		2	学校評価満足度　８０％未満						
			1	ホームページ定期更新　月に２回未満		1	学校評価満足度　７０％未満						
	保護者や地域の理解や協力を得た教育活動の取組	・本所中学校や本校学区域内の幼稚園、保育園との交流活動の実施。 ・横川地区連合子供育成会主催のスポーツラリーなどをPTAと共催で実施する。	4	左記の活動頻度　月２回	2	4	学校評価満足度　９０％以上	3	入学してくる園児の配慮事項や、卒業していく６年生の進学先中学校との情報交換に重きを置いている。	日常的な活動の中に、多くの交流活動を取り入れることに課題がある。	C	B	
			3	左記の活動頻度　月１回		3	学校評価満足度　８０％以上						
			2	左記の活動頻度　２か月に１回		2	学校評価満足度　８０％未満						
			1	左記の活動頻度　３か月に１回未満		1	学校評価満足度　７０％未満						
			4			4							
			3			3							
			2			2							
			1			1							

〇令和６年度　学校経営報告のまとめ（総括）

・教職員の職務に対する誠実な取組と、その成果である児童の成長した姿が認められ、おおむね肯定的な評価を得ることができた。今後も、地域・家庭・学校が連携してよりよい教育活動を進めていけるよう、努力したい。

・児童の不登校の予防と解決に向けた取組指標と成果指標や、教職員のライフワークバランス支援での年次有給休暇取得目標について、達成不可能な理想的数値を追求するより、現実的な目標値を設定するようにとの意見が多く出された。